



当館が所蔵する大正4年から昭和35年までの御殿飾りを一堂に展示し、年代が明確な御殿飾りを軸として、形態や特徴がどのように変化しながら豪華にそして複雑になっていったのか、御殿飾りの変遷を中心に展示しています。前号では大正から昭和戦前期の御殿飾りを紹介し、本号では昭和20年代後半と30年代の御殿飾りを紹介します。



昭和26年



昭和29年

昭和20年代後半の御殿飾り

昭和20年代後半の御殿飾りは、時代とともにさらに豪華な装飾と大型化・重層化へと発展していきます。御殿全体がそれまでの黒塗りであったのに対し、赤塗りへと大きく変化する点は注目です。御殿は主殿に別間が両脇に付属する形態に集約され、主殿の千鳥破風と両脇別間の妻部分が三角形を構成しバランスをとります。鯨しやちほこや唐獅子からしし、鳳凰ほうおうげきよ懸魚を中心に金属製装飾による豪華さが圧倒的で、大棟の太い鳥おおむね袈とりぶすまや神社建築に見るようなかつおぎ鯉木ちぎが登場します。

資料 収
展 蔵3/17
(日)まで

御殿飾りのおひなさま



昭和30年代



昭和35年

昭和30年代の御殿飾り

御殿飾りの最終時期となる昭和30年代は、全体が重層化したことに加え、主殿だけでなく脇間にも唐破風からが付属し複雑化しています。これに伴い金属製の装飾も増え、眩まばゆい御殿飾りは一層豪華な造りとなっています。華やかさに目を奪われますが、基壇きだんの塗装が水色みづいろに統一されたことや、虹梁こうりょう両端の金属装飾は摸ぼくだけでなく龍の存在も注目できます。これほどの豪華な装飾は、日本の高度経済成長期を反映しているでしょう。

伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館

休館日：月曜日（月曜日が祝日は翌日）・年末年始 開館時間：午前9時～午後5時（入館は4時30分）

お問い合わせ 群馬県伊勢崎市西久保町二丁目98 電話 0270-63-0030 FAX0270-63-0087

E m a i l : siryokan@city.isesaki.lg.jp

入館無料